

サポート

NO. 132号

平成28年7月25日発行

県教育庁特別支援教育課 指導班

秋田県特別支援学校職業教育フェスティバル

今年で6回目となる平成28年度秋田県特別支援学校職業教育フェスティバルを、7月15日（金）に秋田市にぎわい交流館AUで開催いたしました。作業学習製品の展示や販売、視覚支援学校生徒及び教職員による「ふれあいマッサージ」等を通して、特別支援学校の職業教育の取組を紹介しました。

「作業学習実践交流会」は、今年も作業種目別のグループに分かれて実施しました。食品加工品の試食や「曲げわっぱ」等の地場産業を取り入れた作業学習の体験など、生徒同士が関わり合い、互いの取組の紹介を基に情報交換をしました。感じたこと学んだことを自校の作業学習に生かすとともに、今後も作業学習による交流を通して切磋琢磨することを期待しています。

同時開催の秋田県障害者技能競技大会には65名（うち特別支援学校生徒64名）の選手が参加しました。今年もハローワーク秋田の御協力により、多くの企業関係者に会場いただき、生徒の職業技能をご覧いただくことができました。

秋田県障害者技能競技大会の部門別受賞者（特別支援学校在籍者）は次のとおりです。なお、金賞受賞者の中から特に優秀な成績であった選手には県知事賞が贈られました。



木工競技部門



実践交流会「曲げわっぱ体験」



カフェ販売

【技能競技大会結果】

| 【技能競技大会結果】 | | 県知事賞 | | |
|------------|------|-----------|-------------|------------|
| 部門 | 参加者数 | 1位 | 2位 | 3位 |
| ワード・プロセッサ | 9 | 小林 靖幸（栗田） | 小玉 葵（聴覚） | 佐々木 廉（聴覚） |
| 表計算 | 1 | （社会人） | | |
| 喫茶サービス | 16 | 木村 大河（大曲） | 藤本 駿也（せんぼく） | 大友 温登（栗田） |
| 木工 | 6 | 木内 崇人（栗田） | 大場 洸貴（ゆり） | 伊藤 健流（天王） |
| ビルクリーニング | 16 | 大場 海斗（ゆり） | 永沢 伊吹（横手） | 池田 風優人（栗田） |
| 縫製 | 8 | 根守 紗夢（附属） | 須原 優奈（稲川） | 小川原 友美（比内） |
| パソコンデータ入力 | 9 | 佐々木 望（大曲） | 相原 翔太（栗田） | 佐々木 大空（栗田） |
| 合計 | 65 | | | |

でんしん
伝心

稲川支援学校高等部は、地域の方々との交流活動を積極的に行っています。

その中のひとつに、毎年恒例となった、湯沢高等学校稲川分校との「絵どうろう制作交流会」があります。この交流は平成13年度から始まっており、当時は湯沢北高等学校の生活科学科福祉コースの生徒との活動でした。その後、平成23年度からは稲川分校へと交流相手が替わり、現在に至ります。今年度も、6月1日（水）と6月29日（水）の両日、実施しました。また、この交流会では「湯沢市絵どうろう保存会」の方々にも、絵どうろう制作の指導をしていただいています。今年度は首藤ミエさんに来校していただき、「下書き」や「色つけ」の仕方を丁寧に教えていただきました。

交流会には両校とも、2年生が参加しました。4～5人のグループで活動を行いましたが、1回目の交流ではお互いが何となく恥ずかしそうにしており、なかなか声を掛けにくそうにしていました。それでも「題材選び」や「下絵描き」などの活動を行っていくうちに、「どの美人画にする？」「その部分の下描きして」などと自然に会話ができるようになっていきました。

2回目の交流では、恥ずかしさや遠慮は薄れ、久々の対面を喜んでおり、すぐに「色付け」の活動にも入ることができました。友達の活動を見て、必要な顔料を用意したり、「ここは誰が色付けする？」など、話し合いを行ったりしながら交流は進んでいきました。休み時間には、好きなアニメの話やお互いの学校の様子を楽しそうに会話する姿も見られました。

できあがった絵どうろうは、8月5日（金）から3日間、「七夕絵どうろうまつり」で会場に飾られます。絵どうろうの中に明かりがともされ、夕闇の夜空に浮かぶ様子はきっと風情があることでしょう。

今後も「高校生同士」の交流を、長く続けていきたいと考えています。

県立稲川支援学校 高等部主事 佐藤 茂樹

